

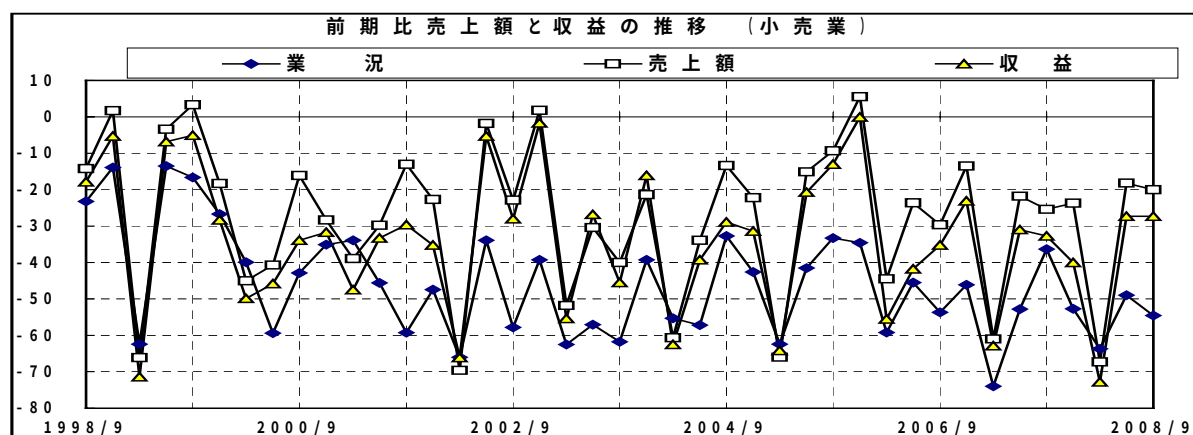
小 売 業 55 企 業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-63.7	-49.0	-54.6	-49.1
売上額	-67.3	-18.2	-20.0	-16.4
収益	-72.8	-27.3	-27.3	-27.2

今期の業況判断DI値は△54.6 と、前期比 5.6 ポイント低下、過去 10 年間同期の中で 4 番目に低い水準となった。地区別にみると、前期比えりも、広尾地区が改善し、三石地区が横ばい、浦河、静内、様似地区で悪化している。

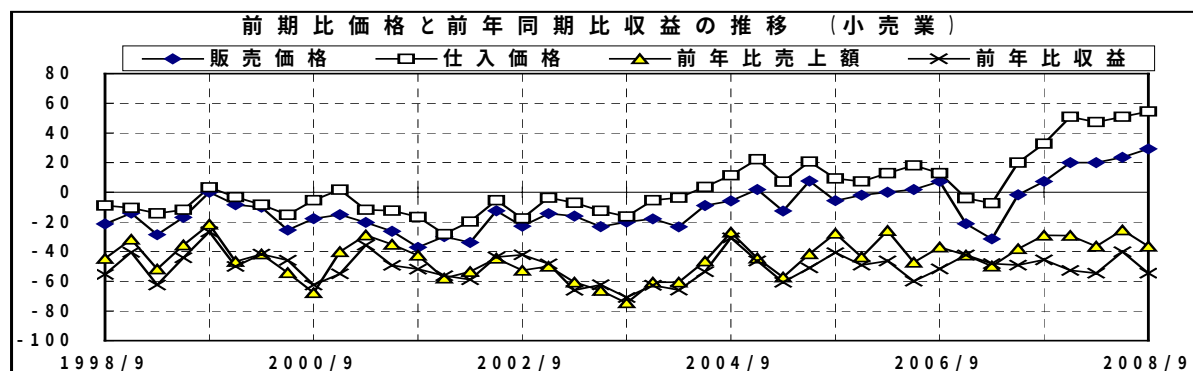
売上額、収益判断DI値は、売上額が△20.0 で前期比 1.8 ポイント低下し、収益は△27.3 で前期比横ばいとなった。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
販売価格	20.0	23.6	29.2	18.1
仕入価格	47.3	50.9	54.5	25.5

販売価格判断DI値(29.2)、仕入価格判断DI値(54.5)は、前期比プラス幅がそれぞれ 5.6、3.6 ポイント拡大、価格上昇基調が強まっている。業種別にみると、前期比衣料品、食料品、家電品が販売、仕入価格判断DI値ともに上昇している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	-7.3	-5.5	0.1	1.8
人手状況	7.3	-1.8	-9.0	-7.2

残業時間判断DI値は 0.1 と、残業時間が減少したとする企業割合の減少から、増加したとする企業割合が僅かに上回り前期比 5.6 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は△9.0 と、前期比マイナス幅が 7.2 ポイント拡大、人手不足感が強まっている。

□ 設備投資の動き

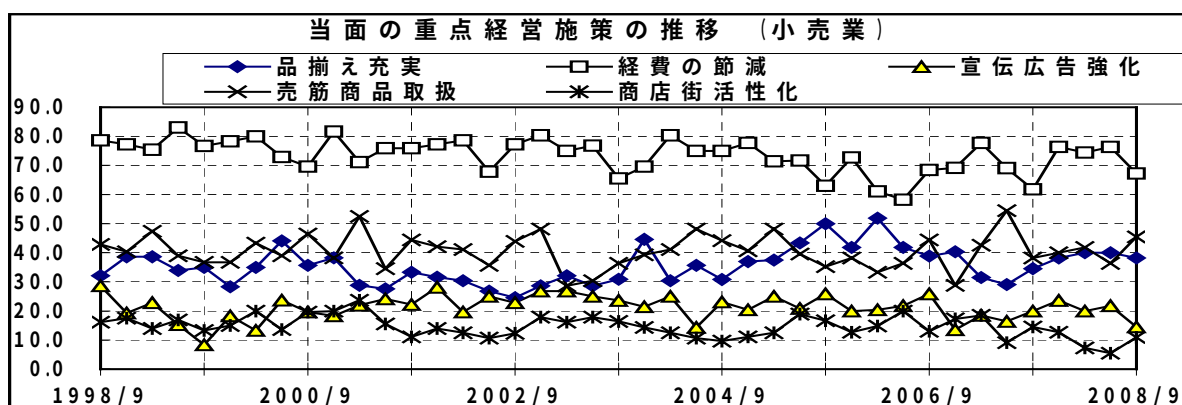
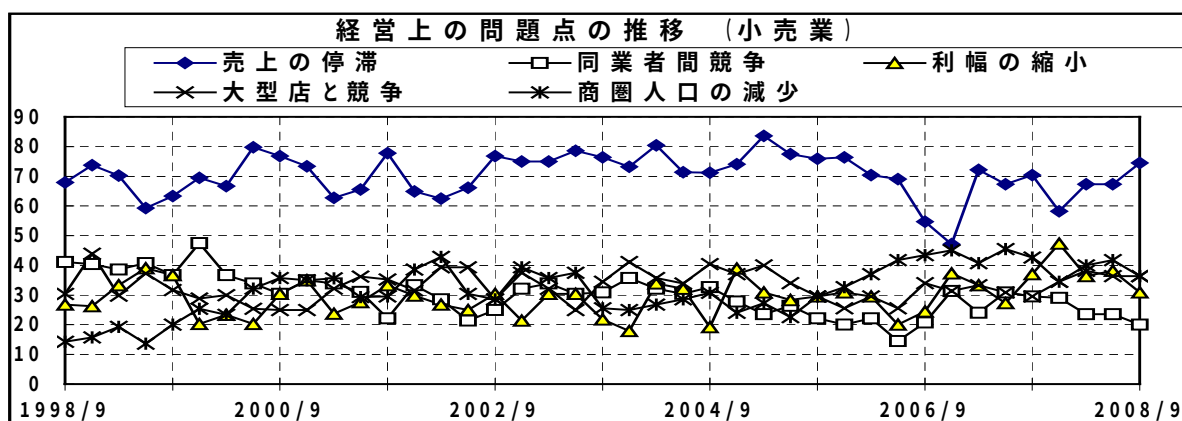
設備投資の充足感を示すD I 値は△10.9 と、前期（△5.4）からマイナス幅が5.5 ポイント拡大し不足感が強まる一方、適正と回答した企業は 89.1%で、前期(80.0%)から 9.1 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 9.1%と、前期（10.9%）比 1.8 ポイント低下し件数で前期の 6 社に対し 5 社の実施となった。一方、来期予定では当期比横ばいの 5 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 74.5%、次いで「商圈人口の減少」、「大型店との競争」36.4%、「利幅の縮小」30.9%の順に続き、前期との比較では、「売上の停滞」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、衣料品、食料品、家電品が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 67.3%、次いで「売れ筋商品取扱」45.5%、「品揃えの充実」38.2%、「仕入先の開拓」18.2%の順となっている。業種別にみると、衣料品が「経費の節減」、「品揃えの充実」、食料品が「売れ筋商品取扱」、家電品が「経費の節減」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期（20 年 10～12 月期）の予想業況判断D I 値は△49.1 と、今期（△54.6）実績比 5.5 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額△16.4（今期△20.0）、収益△27.2（今期△27.3）と、今期実績比それぞれ 3.6、0.1 ポイント上昇を見通している。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、販売価格 18.1（今期 29.2）、仕入価格 25.5（今期 54.5）と、今期実績比プラス幅がそれぞれ 11.1、29.0 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

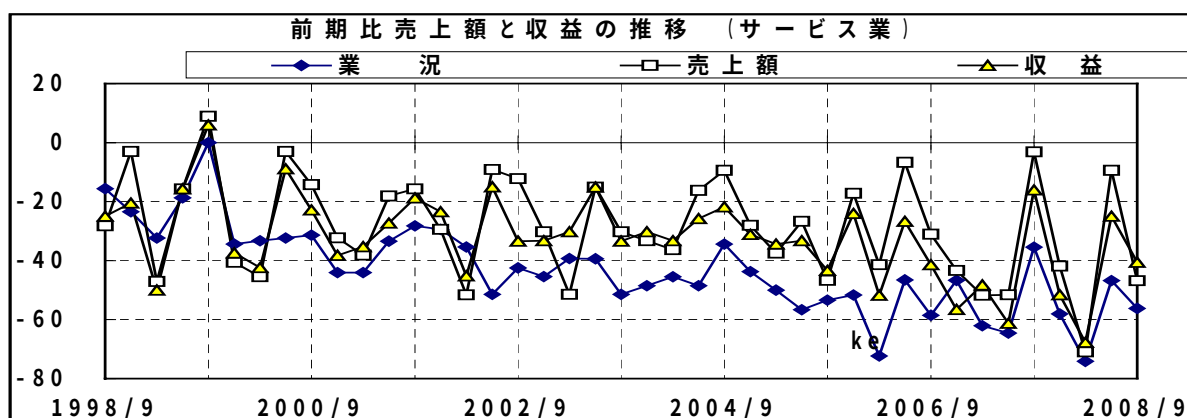
サービス業 32 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-74.2	-46.8	-56.2	-46.9
売上額	-71.0	-9.4	-46.9	-34.4
収 益	-67.8	-25.0	-40.6	-37.5

今期の業況判断DI値は△56.2 と、前期比 9.4 ポイント低下、過去 10 年間同期の中で平成 18 年に次ぐ低い水準となった。地区別にみると、前期比静内地区が改善し、広尾地区が横ばい、浦河、三石、様似、えりも地区で悪化している。

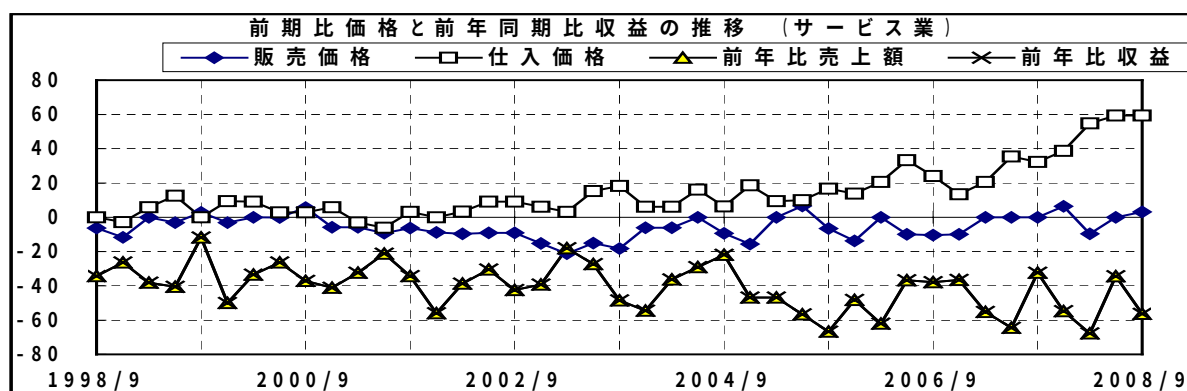
売上額、収益判断DI値は、売上額△46.9、収益△40.6 と、前期比マイナス幅が拡大しそれぞれ 37.5、15.6 ポイント低下した。



□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
料金価格	-9.7	0.0	3.1	3.1
材料価格	54.8	59.4	59.3	50.1

料金価格判断DI値(3.1)は、前期比ゼロからプラスに転じ、価格上昇基調が強まっている。一方、材料価格判断DI値(59.3)では、前期比プラス幅が 0.1 ポイント縮小、価格上昇基調が僅かに弱まっている。業種別にみると、前期比洗濯・理美容は料金価格判断DI値が上昇し材料価格判断DI値で横ばい、旅館、自動車整備は料金、材料価格判断DI値ともに横ばいとなっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	-32.3	-18.8	-12.6	-15.7
人手状況	22.6	-6.2	-3.2	0.0

残業時間判断DI値は△12.6 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比 6.2 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は△3.2 と、前期比マイナス幅が 3.0 ポイント縮小、人手不足感が弱まっている。

□ 設備投資の動き

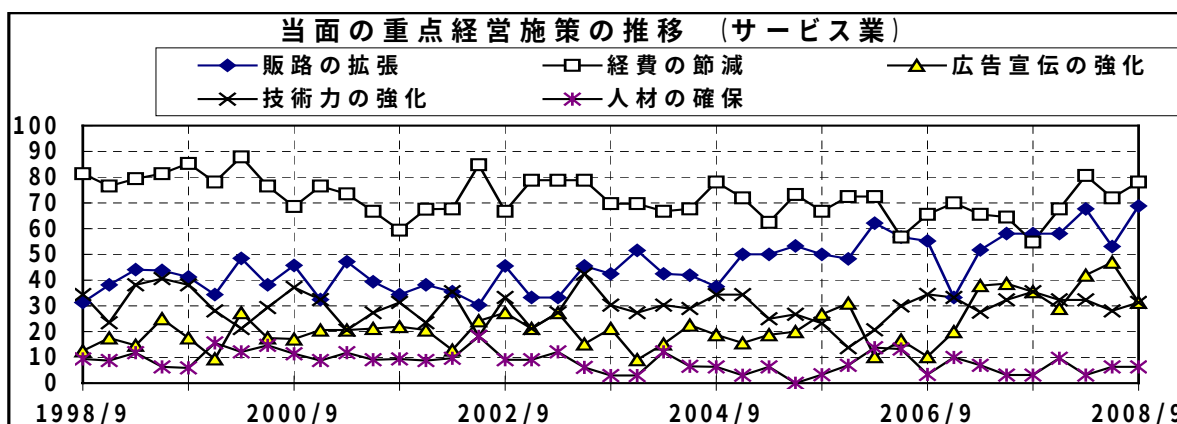
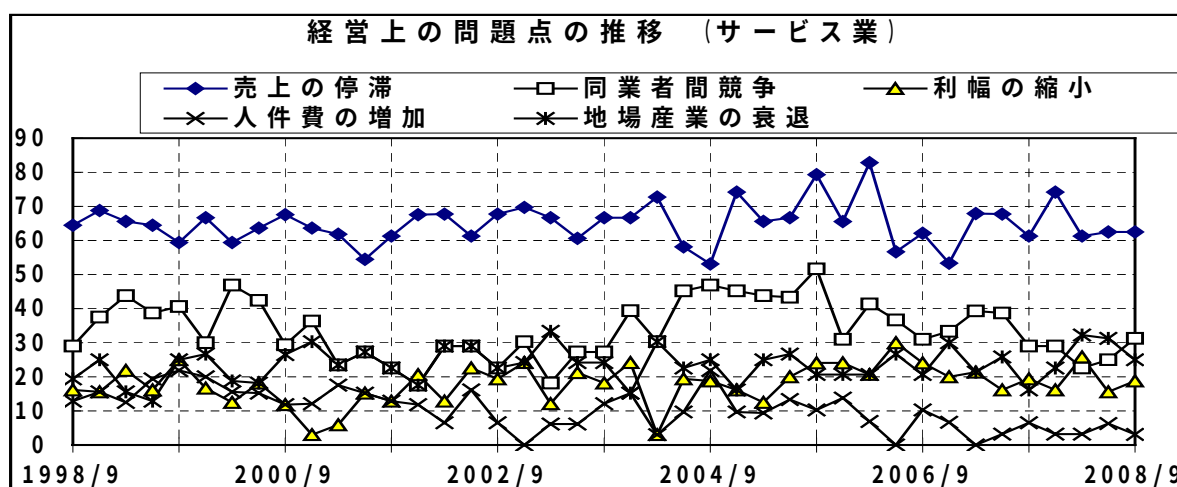
設備投資の充足感を示すD I 値は $\Delta 9.4$ と、前期($\Delta 9.4$)不足感が横ばいとなった一方、適正と回答した企業は71.8%で、前期(65.6%)から6.2ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は15.6%と、前期(12.5%)比3.1ポイント上昇し件数で前期の4社に対し5社の実施となった。一方、来期予定では当期比横ばいの5社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ62.5%、次いで「材料価格の上昇」43.8%、「商圈人口の減少」、「同業者間との競合」31.3%の順に続き、前期との比較では「同業者間との競合」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、旅館が「材料価格の上昇」、洗濯・理美容が「売上の停滞」、「材料価格の上昇」、自動車整備が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ78.1%、次いで「販路を広げる」68.8%、「宣伝広告の強化」、「技術力を強化する」31.3%の順となっている。業種別にみると、旅館が「販路を広げる」、洗濯・理美容、自動車整備が「経費の節減」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(20年10~12月期)の予想業況判断D I 値は $\Delta 46.9$ と、今期($\Delta 56.2$)実績比9.3ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額 $\Delta 34.4$ (今期 $\Delta 46.9$)、収益 $\Delta 37.5$ (今期 $\Delta 40.6$)と、今期実績比それぞれ12.5、3.1ポイント上昇を見通している。

予想料金、予想材料価格判断D I 値は、料金価格が3.1(今期3.1)で当期実績比横ばい見通しとなった一方、予想材料価格判断D I 値は50.1(今期59.3)で今期実績比プラス幅が9.2ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。